

## JAL整備工場 (JAL SKY MUSEUM) 工場見学報告書 (2019年12月1日実施)

横浜国大部会 佐々木隆雄  
(日本製鋼所 OB)

老いも若きも子供から大人までこの工場見学は大人気で予約するのに苦労するイベントの一つです。今回で3回目、予約できたのは2019年12月1日(これまでと同じく日曜日)、13:00~14:40の時間帯でした。工場は羽田空港近く、京急線で天空橋駅へ、そこで東京モノレールに乗り継ぎ新整備場駅で降りて徒歩2~3分の所にあります。見学コース所要時間は「航空教室」30分、「展示エリア見学」20分、「整備工場(格納庫)見学」50分の計100分。開始時間30分前から入場でき展示エリアを自由に見学できます。

新整備場駅には12:30までに集合と案内していましたが、遅れてくる留学生を10分ほど待ちました。参加者は留学生19名、会員4名の計23名、当日京急線にダイヤが乱れるトラブルがあり、電車が時間通りに動かないので留学生4名は途中で新整備場に来るのをあきらめたようです。整備工場への入館手続きを終えて入館証を胸にかけ指定の教室に入ったのは開始15分前でした。留学生はすぐに思い思いに展示エリア内を歩き回っていました。今回の報告書ではこの見学の内容を時間系列で少し詳しく紹介したいと思います。

13:00 まずは「航空教室」です。今回の主インストラクターは英語で対応してくれました。空港、飛行機のメカニズム、JALスタッフの仕事を映像も含めての説明と紹介、盛りだくさんの内容です。30分はあっという間に過ぎました。

13:30~13:50 展示エリアの自由見学です。展示エリアには「アーカイブズエリア」、「制服体験エリア」、「仕事紹介エリア」、「モデルプレーンタワー」等さまざまなエリアがあります。制服体験エリアでは留学生のほとんどが女性も含めてキャビンアテンダントではなく機長の制服で写真におさまっているのが目につきました。確かに20分程しかない時間では物足りないので開始30分前には展示エリアは自由に歩けるとするのは良いアイデアだと思います。なお今年2020年6月からは展示エリアがリニューアルされるということです。この工場見学の魅力の一つはこのような展示エリアの見学が含まれていることにあると言っても過言ではありません。

13:50~14:40 いよいよ整備工場(格納庫・Hangar)見学の時間です。英語での案内に13人と日本語での案内に10人の2班に分かれての見学となりました。整備工場は2つあり主に「重整備」(主に6~8年ごとに1か月かけて行うものと、1年半ごとに10日ほどかける整備)を行うM1工場とそれ以外の整備を主に行っているM2工場です。展示エリアから二重扉を通り抜けるとM1工場です。見下ろす地上フロアで中型機Boeing787が重整備中で、作業は始まったばかりらしくエンジン、座席を取り外すための準備中でした。M2工場に移動、地上フロアに降りる前にヘルメットを着用、フロアでは飛行機にも機体の下を除いて自由に近づけます。この工場にはJAL使用機で最大のBoeing777・中型機787・小型機737と3機もドックインされていて、定期チェックを受けていました。M2整備場は最大5機を収納できるM1に比べてはるかに広い整備場です。整備場の滑走路側は飛行機の出入り口で開閉自由の扉構造で悪天候でもない限り大きく開かれています。この日も天気は良くそこから眺める広い滑走路、その先の工業地帯そして白灰色の雲を浮かべる青空、キャンバスに描かれた絵のようでした。

そこへ2~5分毎に離着陸する飛行機が飛び込んできます。静と躍動感が交互する眺めをしばらく見入りました。ここで参加者の集合写真を撮ってから整備場の出口/オフィス室の入り口を通り入館した場所に案内され外に出た所で解散しました。

留学生Mr. Abraham Eyasu, エチオピアからの留学生/大学院国際社会学府PPTの感想を以下に書き添えます(見学の帰りに聞いたこと、後日メールのやり取りで補足されたことをまとめました)。

「当日京急線は電車運行が時刻通りでなく困惑しましたが乗客からの助言で新整備場にはちょっとした遅れで着くことができました。あとはすべてよし、この日は本当に私にとって特別な日となりました。この日見たこと、感じたことは生涯忘れないでしょうし、機会あるごとに話題の一つになるだろうと思います。エチオピアではセキュリティーの観点から、飛行場とその周辺は公共の場を除いて入ることができないのでこのような機会は今のところ考えられないからです。展示エリアは小学生等の小さい子供も訪れることを想定しての配慮と、バラエティーに富んでいることに感心しました。航空教室では、特に飛行機の組み立てを早送りで見せるビデオが気に入りましたが良いアイデアだと思いました。整備場に移動してまずその広さにもびっくり、飛行機が建物の中にあることが新鮮で建物の構造やら整備ための設備機器それと目の前の飛行機を映像で保存したく沢山の写真を撮りました。また滑走路と同じグラウンドで離着陸する飛行機を間近に見、スマホに映像として取り込む作業に没頭してしまい時間のことを忘れてしまいました。そのためグループからは遅れて動いていたようで迷惑をかけたようです。素晴らしい機会をアレンジしてくれた三井V-Netに感謝、ありがとうございました。」

彼はJALグッズショップで見つけたジャージー(黒地に白でJAL機の鶴のロゴマーク等がアクセントとなっているもの、黒と白の取り合わせが彼の好む装いの配色です)を買い求め整備場に移動するときから身に着けていました。その時から満足感があったのでしょう。

以上

(整備場内にて)

